

## 研究課題

「乳癌におけるがん抑制遺伝子の異常と染色体不安定性に関する研究」

### 【はじめに】

乳癌をはじめ、多くの悪性腫瘍ではさまざまながん抑制遺伝子の異常が起こっています。また、染色体が非常に不安定になっており、がんの悪性度と関連していると考えられています。

今回、私たちは乳癌においてさまざまながん抑制遺伝子の異常と、染色体不安定性の関連を解析します。また、乳がんの性質や予後との関連を調べ、がん抑制遺伝子の異常や染色体不安定性の乳がんにおける臨床的意義を解明します。

### 【対象】

九州大学病院消化器・総合外科(乳腺外科(2))において2000年1月1日から2011年12月31日までに乳癌の診断で手術を受けられた方の切除標本のうち、約300名を対象に致します。

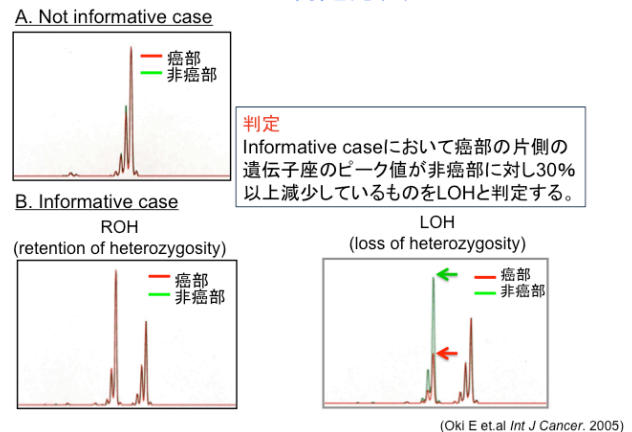
対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### 【研究内容】

当科で切除された切除標本を使って、*BRCA1*, *BRCA2*, *PTEN*, *TP53*, *Rb* などの主要ながん抑制遺伝子のヘテロ接合性の喪失(LOH)(染色体不安定性の指標となります)やメチル化を解析し、mRNA 発現量、蛋白発現量を定量的 RT-PCR

や免疫組織化学染色で調べます。また、SNP-CGH という網羅的に全染色体の状況を解析できる解析法やさまざまな癌で異常が報告されている LINE-1 という蛋白をコードしていない染色体部分のメチル化を解析することによって染色体全体の不安定性やメチル化の程度を調べます。この結果と患者さんの乳癌の進行度や、ホルモン受容体の発現、*HER2* 遺伝子の状況、乳癌のタイプなどを比較し、乳がんにおけるがん抑制遺伝子の異常や染色体不安定性の関連、また、乳がんにおける臨床的意義について考察します。

### LOHの判定方法



### SNP-CGHIによる染色体不安定性解析



この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

### 【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

### 【研究期間】

研究を行う期間は承認日より平成26年3月31日までと考えています。

### 【医学上の貢献】

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は乳癌の増殖や転移の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

### 【研究機関】

九州大学大学院

消化器・総合外科学分野 教授 前原 喜彦（責任者）

九州連携臨床腫瘍学・准教授・徳永えり子

九州大学病院

消化管外科(2) 講師 森田 勝

乳腺外科(2) 医員 山下 奈真

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-6921

担当：徳永えり子